資料３

名古屋市子ども・若者支援地域協議会の取り組みについて
（令和５年度報告）

１．パートナー機関との連携のしくみづくりと情報発信

１）パートナー機関　登録機関数　　　登録数　計３７（令和６年３月末現在）

登録区分	
非営利法人	９
任意団体	４
企業・事業者	２１
個人	３
計	３７

２）パートナー機関に対する取組み

学習会参加への呼びかけを行った。また、名古屋市子ども・若者総合相談センターの支援において、必要に応じて連携を実施した。

２.成果指標の精査と活用

成果指標に基づき、相談者の変化についての評価を実施した。

社会的自立に向け支援を受けていた子ども・若者のうち、支援を通して状況に改善がみられた者の割合 62.1％

３.支援者スキルアップ研修の開催

子ども・若者支援に関わる支援者を対象に、インターネット上の仮想空間を活用した若者支援の先進事例を学ぶ学習会を開催した。

日時　令和６年１月１６日（火）１３：３０～１４：４５
講演　インターネット上の仮想空間を活用した子ども若者支援の現状
講師　内田啓太氏（一般社団法人パーソナルラボ　代表理事）
場所　名古屋都市センター　１４階　特別会議室
参加人数　３２名

４.パートナー機関意見交換会の実施

パートナー機関がそれぞれに抱える日々の課題や問題意識を共有し、今後に向けての連携・協働に向けての意見交換を行った。

日時　令和６年１月１６日（火）１５:００～１６：３０
場所　名古屋都市センター　１４階　特別会議室
参加人数　パートナー機関　４名　子ども若者総合相談センター職員　５名
　　　　　名古屋市　２名

５．実務者会議の開催

下記の通り実務者会議を実施した。

出席者　少年サポートセンター、なごや若者サポートステーション、
家庭訪問型相談支援事業、若者・企業リンクサポート事業、
北部及び南部ステップアップルーム、青少年交流プラザ、
子ども・若者総合相談センター、名古屋市

内容　支援における相談事・課題等についてグループでディスカッションを行った。

＜具体的な進め方＞

・参加者が挙手制で、支援に関する相談、事業についての課題等、実務者会議のメンバーに相談したいことを提案（１回の実務者会議につき３テーマ程度）
・参加者は自身の関心のあるテーマのグループに参加
・グループでは「現状」「相談したいこと」を話題提供者が共有した後、メンバーで自由に意見やアイデアを出し合い、具体的なアクションの案を検討
・模造紙に議論をメモしながら行い、最後に全体に向けて発表

> 検討テーマの例
> 　利用者同士のトラブルにどの程度介入するか、親の同意を得られない中での支援について、医療機関や児童相談所等との連携について　等

少人数グループで行うことにより、より主体的で具体的な検討を行うことができた。

実施日　第４金曜日１６:３０～１８：３０　年１０回
４月２５日、５月２３日、６月２７日、７月１８日、９月２６日
１０月２４日、１１月２８日、１２月２６日、１月２３日、３月２７日

６．中学３年生の保護者向けリーフレットの作成（15 歳の「今」と「これから」を応援するハンドブック）

令和６年２月　市内中学校を通じて中学３年生の各世帯にハンドブックを配布
令和６年３月　「中学生の学習支援事業」実施事業者へデータ版を配布